

都市交流

鮫川村では、「まめで達者な村づくり」の一環として、大学との交流や体験交流型観光の推進など、都市との交流事業を積極的に行っています。

この交流事業は、村内の農林業・自然・生活文化・伝統工芸などといった豊かな地域資源（宝）に磨きをかけ、交流人口（村外から訪れる人たち）の増加と定住人口の確保など、地域で暮らし続けられる基盤を作るために行っているものです。

村を訪れる人が増え、地域の魅力を活かした交流をとおして地域が元気になってきています。

今月は、先月に村内各地で行われた交流事業などを紹介します。



ふるさと体験学校：上…間伐作業体験／左上…地域の人たちと一緒に夕食づくり／左…江竜田の滝で集合写真

さめがわ・ふるさと体験学校 都会から農山漁村への移住を支援する活動を行うふるさと回帰支援センターと村が主催する「さめがわ・ふるさと体験学校」は六月七日、八日に行われました。

採りなどを体験し、村農村体験交流施設「山王の里」で地域の人たちと一緒に夕食のてんぷらやばたもちなどの夕食づくりに挑戦しました。引き続き交流会が行われ、渡瀬地区の住民と交流を深めました。



第52回東京農業大学カレッジ講座

里山の景観を保全・維持し、地域の魅力を高めることを目的とした東京農業大学カレッジ講座「里山景観保全活動」は、五月三十一日、六月一日の二日間行われ、東京農業大学学生や首都圏の住民三十人が参加しました。

両日とも落合地区で行われ、初日は、「わらもじり」を体験。秋の収穫時に使う縄を作りました。続いて、じゅうねんだんごづくり、参加者全員で味わいました。

二日目は、同地区で田植えを実施。約25㍓の水田にコガネモチの苗を丁寧に植えましました。

荻ノ沢・塩倉地区の交流

第三次振興計画の「鮫川村元気づくりモデル地区」に参加している荻ノ沢・塩倉地区（春りんどうの会・関根茂男会長）の竹の子祭り、自然薯植付祭りは六月十五日、荻ノ沢地区内の畑で行われました。



春りんどうの会：自然薯植え付けを体験する柿木のオーナー

同地区は、遊休農地の解消や都市との交流を通して地域の活性化を図ろうと「柿木里親制度」を実施しています。

今回は、会津若松市などから里親五十組十人が参加。竹の子狩りを体験し、柿の木の消毒や除草も行いました。引き続き、自然薯植え付けが行われ、一本一本丁寧に植え付けをし、収穫を楽しみにしていました。

を使った郷土料理や地元演歌歌手・増谷猛さん（荻ノ沢）の歌謡ショーで地域の人との交流を深めました。

また、柿の木畑の愛称が「柿の友畑（ともだち）」に決定しました。

懇親会も行われ、タケノコ



東京農大カレッジ講座：左…田植え体験をする参加者／下…わらもじり体験

